

# 第4回円空大賞円空賞

## 秋山陽（あきやまよう）



### プロフィール

- 1953年：山口県下関市に生まれる
- 1976年：京都市立芸術大学卒業（78年陶磁器専攻科修了）
- 1987年：今日の造形「土と炎」（岐阜県美術館）
- 1988年：陶・生まれ変わる造形（滋賀県立近代美術館）
- 1989年：第46回ファエンツァ国際陶芸展（イタリア）、ユーロパリア'89日本（モンス市立美術館・ベルギー）
- 1990年：作法の遊戯'90年春・美術の現在（水戸芸術館）、土の造形展（栃木県立美術館）
- 1991年：変貌する陶芸（滋賀県立陶芸の森）
- 1992年：京都市芸術新人賞受賞
- 1994年：素材の領分（東京国立近代美術館工芸館）、第12回京都府文化賞・奨励賞受賞
- 1995年：現代日本工芸展（ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館・イギリス）
- 1996年：現代陶芸の若き旗手たち（愛知県陶磁資料館）
- 1997年：平成8年度日本陶磁協会賞受賞
- 1998年：日本現代陶芸展・前衛の動向（フェンロー美術館・オランダ）
- 2001年：第19回現代日本彫刻展（宇部市野外彫刻美術館）
- 2003年：日本の陶芸と写真（ダイヒトア美術館・ドイツ）
- 2004年：Confronting Tradition（スミス・カレッジ美術館・USA）
- 2005年：Transformation（オーストラリア・ナショナル・ギャラリー）  
Alternative Paradise（金沢21世紀美術館）

### 選評：選考委員長梅原猛

秋山陽氏の彫刻といってもよい巨大な陶芸作品は、陶芸の材料になる土というものについての深い思弁から生じているように思われる。ふつう陶芸家は土というものを芸術表現の手段と考え、土の意味を問わない。しかし秋山氏は執拗に土の意味を問う。土は巨大な岩にもなり、堅い石にもなる。そして土はまた深い亀裂を生じて大きな叫び声を上げるかのようなのである。秋山氏の作品は陶芸という枠を超えているかもしれないが、一万二千年前から土をもって土器を作った日本人に、土の超原始的な意味を教えるものではなかろうか。



Metavoid (2004年制作)



Metavoid6 (2005年制作)



Metavoid4 (2004年制作)



境界・系 II (1998年制作)



PhoIII (1997年制作)